

アメリカ合衆国フロリダ州における高齢者の定住地としてのリタイアメント・コミュニティ

Retirement Communities for the Elderly in Florida, U. S. A.

プロジェクト代表者：菅野峰明（教養学部・教授）

Mineaki KANNO（Faculty of Liberal Arts, Professor）

1 研究の目的

アメリカ合衆国フロリダ州は北東部や中西部から流入する人口のなかで65歳以上の高齢者の割合が高い。フロリダ州への1995～2000年の国内純人口移動60.7万人のうち、14.9万人が65歳以上の高齢者であり、全体の24.6%を高齢者が占めた。フロリダ州の高齢者比率は17.5%（2000年）に達し、全米で第1位の高い比率である。高齢者はフロリダ州において普遍的に居住するのではなく、フロリダ半島の東海岸や西海岸の大都市圏内および中央部のレイク・デストリクト（湖地区）の環境条件のよいところに居住することが多い。これらの地域には、高齢者のためのリタイアメント・コミュニティの開発が顕著である。

本研究の目的は、北東部や中西部からフロリダ州に流入する高齢者の移動パターンを明らかにしたうえで、高齢者はどのようにして定住先としてリタイアメント・コミュニティを選択して住みつくのかを明らかにすることである。

表1 フロリダ州へ的高齢者の純流入（1万人以上、1995-2000）

州	流入者(人)
New York	61,298
New Jersey	23,329
Ohio	18,519
Michigan	18,462
Pennsylvania	17,350
Massachusetts	15,159
Illinois	15,023
Indiana	10,145
Connecticut	10,133

2 フロリダ州へ的高齢者移動

フロリダ州へ的高齢者の流入が1万人を超える州を見ると、ニューヨーク州からの流入者数が圧倒的に多く、次いでその隣のニュージャージー州となる（表1）。また、ペンシルベニア州、マサチューセッツ州とコネチカット州からも流入者数が多い。北東部のこれらの州からの流入が多い一方で、中西部のオハイオ州、ミシガン州、イリノイ州、インディアナ州からの流入者も多く、フロリダ州への流入者は冬季に寒さが厳しくなる北東部と中西部の諸州からやってくる事が分かる。つまり、これらの流入者の多くは温暖な気候というアメニティを求めての移住と言える。

フロリダ州は65～74歳以上と75～84歳以上までは純人口移動が増加であるが、85歳以上は減少となる。これは“Uターン移動”と呼ばれ、65歳から84歳までの高齢者の移動とは反対の動きをする現象であり、恐らく85歳以上の高齢者が加齢とともに1人では自活できなくなり、親戚・知人からの介護を求めてフロリダ州を去る移動と考えられる。

資料：U.S. Census Bureau,
Census 2000.

3 フロリダ州へ的高齢者流入の要因

フロリダ州へ的高齢者の流入の要因は、退職した人々が余生を温和な気候の地域で送るためと、説明されてきた。フロリダ半島は南北に長いので、実際にはフロリダ半島は3つの気候地域に分けることができる。フロリダ半島の北部は、その北にあるジョージア州やア

ラバマ州よりもやや暖かい程度で、霜が降りるし、時には氷が張ることもあり、そのために四季を感じるができる。また、フロリダ半島の中央部 1/3 の地域は亜熱帯気候となり、ほとんど霜が降ることもないし、氷が張ることもない。また、フロリダ半島の南部 1/3 は熱帯気候で、冬でも気温の変化が少ない。

気候の点からの快適さと同様に、フロリダ州の地形の特色もこの地でアウトドア生活を送る上で重要である。長い海岸線と砂浜、半島内の平坦地、そして中央部に分布する大小様々な湖が、フロリダ州におけるアウトドア・レクリエーションを多様化している。フロリダの高齢者はシャッフルボードだけではなく、ゴルフ、テニス、スキューバ・ダイビング、水泳、ウォーター・スキー、釣り、狩猟、ハイキングなどのスポーツとレクリエーションを楽しむことができる。

4 フロリダ州における高齢者の分布

高齢者の流入によって、フロリダ州内で高齢者の分布パターンがどのようになっているかを見ると、高齢者は南部と中央部に多く、1970年代に多数の高齢者が住みついたマイアミ大都市圏やセントピーターズバーグ・タンパ大都市圏では高齢者の比率が少なくなり、マイアミ大都市圏から北のフロリダ半島東海岸および半島西海岸沿いのセントピーターズバーグ・タンパ大都市圏の北部と南部に高齢者の比率が多い郡がみられるようになった(図1)。マイアミ大都市圏からその北部の都市圏や半島西部への高齢者の移動は、大都市圏における高い犯罪率を避けるためとキューバ系アメリカ人の多い都市圏を避けての移動によるところが大きい。

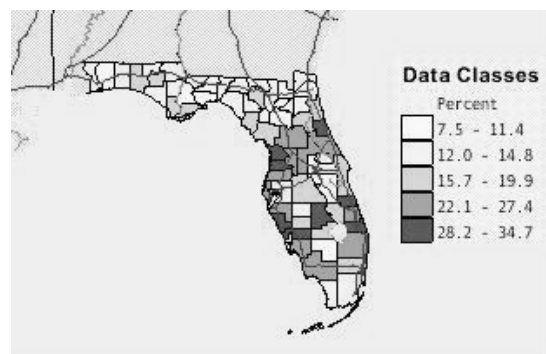


図1 フロリダ州の郡別高齢者率

資料：U. S. Census Bureau,
Census 2000.

5 フロリダ州の高齢者の居住地選択理由

2005年9月にセントピーターズバーグ・タンパ大都市圏内にあるリタイアメント・コミュニティのサン・シティ・センターで住民を対象にアンケート調査を行った結果によると、このサン・シティ・センターを選択した理由として一番多かったのは、「温暖な気候(72%)」、次いで「フロリダのライフスタイル(71%)」、「犯罪の少なさと安全性(34%)」、「生活費の安さ(26%)」、「親類への近さ(24%)」と続き、さらに、「近隣の不動産価格(21%)」、「住宅との関係(20%)」、「周囲の風景(17%)」、「健康との関係(15%)」、「教会への近接性(11%)」となっている(表2)。この結果、これまで言われてきたように、フロリダの温暖な気候とその下でのライフスタイルが大きな要因となっていることが裏付けられた。

表2 サン・シティ・センターの選択理由

選択理由	温暖な気候	ライフスタイル	犯罪の少なさと安全性	生活費の安さ	親類への近さ
回答者	72%	71%	34%	26%	24%
選択理由	近隣の不動産価格	住宅との関係	周囲の風景	健康との関係	教会への近接性
回答者	21%	20%	17%	15%	11%

2005年9月6日調査、回答者92人、複数選択可能。